

「呼吸理学療法学のトピックス」

2020年8月1日

日本呼吸理学療法学会運営幹事：守屋正道

【若手理学療法士への期待】

本邦での呼吸理学療法の歴史は、骨関節疾患や神経筋疾患分野と同等、あるいはそれよりも古く、結核の治療とともに始まっていました。当時は肺機能療法として全国の国立療養所に広まり、その後は外科手術後の機能療法として呼吸リハビリテーションが注目され始めました。最近では、周術期や集中治療領域での呼吸理学療法が盛んに実施されています。その中でも、重症の急性呼吸窮迫症候群（Acute Respiratory Distress Syndrome; ARDS）に対する腹臥位療法や、人工呼吸器装着中から開始する起立や歩行練習などの早期離床は、今まさに進捗し発展しているテーマです。

これまでのテーマの発展・派生や、これまでにないテーマの創造には、若い世代の柔軟で貪欲な探究心が必要です。我々、呼吸理学療法学会は若手の理学療法士が活躍できるフィールドを整備し、次なる世代が切磋琢磨し輝ける地固めに努めて参ります。

日本理学療法士協会の統計によると、現在の理学療法士会員の平均年齢は34歳で、年齢区分で見ると26歳～30歳会員が最多で30,820人というデータがあります（2020年3月末）。若手理学療法士が非常に多い本邦の特徴から、皆さんの活躍を期待しています。

【近年のトピックス】

2020年2月から世界中で感染が拡大したCOVID-19は、呼吸理学療法のみならず多くの理学療法領域に影響を与えました。諸外国での医療崩壊や都市封鎖、本邦での緊急事態宣言など非日常の連続でしたが、最近では「新しい生活習慣」として少しずつですが、日常が戻りつつあるように感じています。

本会はCOVID-19の最新情報をいち早く全国の理学療法士に配信するべく、オーストラリアのチームが中心となって作成された理学療法管理のRecommendations、イタリア呼吸理学療法士協会のポジションペーパー、欧州呼吸器学会のリハビリテーションに関する報告等を翻訳しました。さらに、全国から協力員を募りCOVID-19対策チームを結成し、最新情報を共有・集約するシステムを構築しました。これは協力員から発信される情報を随時メンバーは受信でき、かつ情報の妥当性・重要性を当会で吟味し、ホームページでCOVID-19に対する呼吸理学療法関連情報として、公開するものです。4月から毎週配信しております。

<http://jspt.japanpt.or.jp/jsrpt/COVID-19-information/index.html>

COVID-19との戦いは長期化することが予想されます。まずは皆さまの健康を第一に、そして一刻も早い収束・治療薬の開発を心より願っております。同時に、呼吸理学療法の新たな挑戦に尽力したいと考えています。

【今後充実を図りたいこと】

呼吸理学療法評価の標準化に向けた取り組みを現在行っています。信頼性・妥当性のある評価を誰もが適切に実施し、対象者の全体像を正確に把握（判断）し推論するとともに、理学療法効果を科学的に検証することが求められています。そのため、汎用されている呼吸理学療法評価ツールを抽出し、評価方法の重要性・信頼性ならびに妥当性の検証をすることで、評価の標準化を図り呼吸理学療法のエビデンスを構築していくことを検討しています。運営幹事一同が主となり、呼吸理学療法に携わるすべてのセラピストに協力をいただきながら進めていきたいと考えています。